

日本海洋学会 2016 年度第 2 回幹事会議事録

日時：2016 年 5 月 30 日（月）13:30～17:15

会場：東京大学本郷キャンパス理学部 1 号館 843 号室

出席：日比谷会長、神田副会長、石坂、石川、伊藤、小埜、小畑、川合、津田、原田、山中、毎日学術フォーラム（小野、平坂）

議題：

1. 議事録承認（川合幹事）

2016 年度第 1 回幹事会、評議員会、通常総会の議事録案を確認し、承認した。

2. 審議事項

(1) 入退会について（小畑幹事）

2016 年 2～3 月の入退会を承認した。入会 1 名、退会 107 名、逝去 2 名、2016 年度 3 月末現在の会員数 1623 名。昨年度同時期と比べて 50 名程度減。定年退職者、就職した元学生会員の退会が目立つ。

(2) シンポジウムの後援・協賛等について（小畑幹事）

4 件の後援・協賛について承認した。

(3) 公募・推薦・周知の依頼について

公募・推薦 15 件、シンポジウム・講演などの案内 2 件について、ML 配信その他の対応を行ったことが報告され、承認した。また、平成 28 年度科学技術分野の文部科学大臣表彰科学技術賞を大島会員、蒲生会員、同若手科学者賞を田村会員が受賞したこと、日本地球惑星科学連合への寄付についてお礼の連絡があったこと、海洋気象学会が活動を終了したことについて報告があった。

(4) 会費 3 年未納者について（小畑幹事）

56 名の会費 3 年未納者について、幹事が分担して連絡を試みることとなった。

(5) 秋季大会におけるシンポジウム等の開催及び学会共催の承認について（山中幹事）

2016 年度秋季大会について、シンポジウム 3 件、ナイトセッション 2 件、イベント 2 件を承認した。イベントはシンポジウムとは異なり、大会期間中に行うものであることを確認した。また、一般会員もイベントを提案できるよう、研究発表幹事で検討することとなった。

シンポジウム「未来の海洋学へ（仮題）」に続けて若手発表賞の表彰式を行いたいとの提案があり、研究発表幹事から大会実行委員会に打診することとなった。

(6) 2016 年度選挙の予定について（山中幹事）

名簿作成ならびに選挙に関するスケジュールを確認し、承認した。

(7) JO 特別セクションの企画について（石坂編集長）

JO の特別セクション「福島沿岸域堆積物における福島原発事故由来放射性セシウムの動態評価（仮題）」の提案を承認した。特別セクションの発行に間に合わない論文があった場合、特別セクションの一部であることを明示したうえで通常号に掲載する予定であることが説明された。

(8) 海洋生物研究会について（伊藤幹事）

海洋生物研究会の立ち上げが提案された。生物に関わるシンポジウムを他学会などと共同で行うための母体であり、海洋生物学に関わる会員の増加も期待されるという説明がなされた。会則案を検討し、次回幹事会で再審議することとなった。

(9) 「海の温暖化」の刊行助成について（伊藤幹事）

海洋学会編「海の温暖化」について、各都道府県の SSH に寄贈するための予算の支援依頼があった。次回幹事会で再度審議することとなった。

(10) 会員情報管理 WEB システムの立ち上げの契約書（小畑幹事）

会員情報システム利用許諾契約書が提案された。各自確認し、修正案などあれば ML で連絡することとした。

(11) 第 7 回日本学術振興会育志賞推薦候補者について（神田幹事）

ML 審議の結果をうけて、1 名の候補者を推薦することを承認した。

(12) JpGU 教育検討委員会（川合幹事）

JpGU 教育検討委員会について、委員数を削減する方向で検討されているが、海洋学会からは参加を継続することが提案され、承認した。

(13) 若手集会助成について（神田副会長）

2 件の応募があり、承認した。

3. 報告事項

(1) 会長（日比谷会長）

2016 年度春季大会について、企業展示が少なかったこと、安田講堂の使用料が値上げされたことなどにより、2009 年度大会（東京大学本郷キャンパス開催）に比べて財政的には余裕がなかったが、新たに導入したセッション提案は特に若手に好評であった。

新単元「海のやくわり」の提言について、4月4日に提出し、記者会見を行った。

熊本地震があり、19日に会員向けメッセージを発信した。また、学会メーリングリストの解放を行ったが、利用はなかった。

JpGUの第一回理事会が開催され、日比谷会長が国際戦略担当、原田幹事がダイバーシティ担当となった。

大型研究について、3月31日に書類を提出したのち、JpGU大会において発表を行った。6月半ばに最終審査が行われる予定である。提案の最終版を海洋学会ウェブサイトで公開し会員に周知することを確認した。

(2) 副会長（神田副会長）

学界動向報告の情報収集を開始する。

(3) 庶務（小畑幹事）

「海洋立国推進功労者表彰」の推薦を行ったこと、春季大会の著者抄録をJSTに提出したこと、TV番組から研究者紹介希望が2件あったことが報告された。

(4) 編集

① JO（石坂編集委員長）

リジェクトすべき論文を誤って受理し、オンライン掲載してしまうという事案が発生した。現在、Springerと著者と取り消しの手続きを進めている。

その他、特集号を順調に発刊していること、昨年度から9件の転載許可を行ったこと、Open Choiceが可能になったこと、Short Contributionの規定について8月に会員にアナウンスする予定であることが報告された。

② 海の研究（市川編集委員長）

順調に発刊していることが報告された。

③ ニュースレター（津田編集委員長）

6巻1号の編集が終わったこと、次の締め切りは6月末であることが報告された。

(5) 研究発表（山中幹事）

2016年度秋季大会は鹿児島で開催予定であり、発表申込受付中であること、セッション数は31であることが報告された。

仙台で開催予定の2017年度秋季大会について、東北大学青葉山キャンパスと仙台国際センターを会場として開催されることが報告された。

2018年度秋季大会について、中部地区を候補として調整を開始することとした。

(6) 広報委員会（原田委員長）

JpGU 大会会場でブース展示を行ったこと、来年度は会員が執筆した本をブースで販売することを検討予定であること、講師派遣事業に 36 名の講師登録があったことが報告された。

(7) 教育問題研究会（伊藤幹事）

「一家に一枚シリーズ」に「海」を提案したこと、東京都教職員研修に 2 課題を登録したこと、地学フォーラム、シーグラントシンポジウムに参加したこと、秋季大会でポスターイベント・セッション・COSIA ワークショップ・海のサイエンスカフェを開催予定であること、サイエンスアゴラと女子中高生夏の学校への参加を計画していること、地学オリンピック講師派遣を予定していることが報告された。

(8) 日本科学振興財団（日比谷会長）

練習船・研究船の運用について議論していることが紹介された。

(9) 震災対応（神田副会長）

防災学術連携体について、6 月に年度総会があり、升本会員が参加予定であること、学術会議から東日本大震災に関するアンケート回答の依頼があったことが報告された。アンケートについては ML で会員に周知すると同時に、ウェブサイトにも掲載することとした。

(10) ブレークスルー研究会（小畑幹事）

秋季大会において、将来構想懇談会を計画していることが報告された。ナイトセッションと重ならないよう日程を調整することとなった。

(11) 水産・海洋学研究連絡協議会（津田幹事）

11 月にシンポジウムを開催すること、テーマは「地球温暖化時代における持続的な水産業のあり方」を予定していることが報告された。

(12) 2017 年度以降の研究発表大会にかかわる諸問題検討 WG（小畑幹事）

参考として、本年度の JpGU 合同大会での各部屋使用料が提示された。

春季に開催予定のプランクトン学会・水産海洋学会との合同シンポジウムについて調整中であることが報告された。

(13) アンケートについて（東塚幹事代理日比谷会長）

2016 年度春季大会についてのアンケート集計結果が提示された。

(14) その他（津田幹事）

学術会議で、研究航海日数に関わる検討を行っていること、G7 科学技術大臣会合で海洋科学が取り上げられ、アルゴ計画の推進強化などを含む声明が発表されたことが報告された。

次回幹事会：7月開催予定